

＜今日の説教のポイント 出エジプト記 20章 18-21節＞  
十戒の個々を見て来たが、最後にこの出来事の意味を考えたい。

### 1 (18) 私たちにとって神様とは、本来、どういうお方なのか？

18節の描写は神様がまさにここにおられることを示しています(19:16-19)。人々はそのことを理解しているので、「その有様を見て恐れ、遠く離れて立っている」のです。神様とは、本来、私たちが軽々しく近づける方ではないのだということを考えさせられます。しかし、その神様がイスラエルの民をエジプトから救い出して下さったのです。彼らの恐れはその救いの恵みを覚える中での恐れなのです。

### 2 (19) 神様の前に謙虚にされる 信仰のまず第一歩目。

ですから、ここでイスラエルの人々がただ恐れるのではなく、モーセに、「あなたが私たちに語って下さい」と言ったことは正しい選択をしたのです。神様がモーセを選び、立て、人々に神様の御旨を伝え、エジプトの奴隷状態から救い出して下さる仕方を取られたからです。彼らは直接語られると死んでしまうとモーセに訴えています。この夏、私たちは十戒の持つ真の意味を一つ一つ聞いて来ましたが、私たちの予想を超えた大きな神様の恵みの意味が込められたことを思うとき、この彼らの言葉も理解できるのではないのでしょうか。

### 3 (20) ただ恐れではなく、恐れを伴った畏れに 信仰の第二歩目。

私たちがこの神様がどのようなお方であるか知った時、「恐れ」は「畏れ」に変わります。真に畏れるようになる時、恐れがなくなるわけではなく、正しい恐れに代(変)わるのです(『聖なるもの』岩波文庫、オットー著)。言い換えると、それは神様の喜ばれないことを避け、神様が示して下さる道を歩もうと思うようになる恐れです。

### 4 (21) モーセ以上のとりなし手、イエス・キリスト 信仰の完成へ。

この時、彼らは以上のことをよく理解し、神様の「試し」(20)によく応え(20)、安易に神様に近づくのではなく、神様の御声を聞くことはモーセに託しました。今の私たちには、モーセ以上の「神様と私達のとりなし手」、イエス・キリストが与えられたのです！ この救い主に神様が込めて下さった恵みもまた私たちの自己流の想像を超えています。しかし、神様はそれを理解するための方法も与えて下さいました。それこそが聖書であり、教会であり、礼拝です。このことを信じて歩む者となる(洗礼)時、必ず主が導いて下さるのです。